

審査の結果の要旨

氏名 林 永隆

The Rise and the Development of Leprosy Institutions in British Malaya from 1860 -1957

(英領マラヤにおけるハンセン病療養施設の誕生と発展 1860-1957)

ヨーロッパで14世紀頃に下火となったハンセン病は、19世紀以降、突如アジア・アフリカ・ラテンアメリカなど熱帯の植民地で急増した。本研究は、このハンセン病の蔓延する英領マラヤにおいてハンセン病治療施設がどのように誕生し、どのように変化していったかを、建築的な側面ばかりでなく、社会的対応も含めて、文献、現地のフィールドワーク、現地でのインタビューなどを通じて解明したものである。

本論は、全10章で構成されているが、大きくは4部にわけられる。

第1部は、序(第1章)と文献によるレビュー(第2章)、さらにハンセン病の政策(第3章)からなる。第2部は、海峡植民地(第4章)とマレー連合州(第5章)における初期のハンセン病施設の発展について述べられる。第3部は、1922年から55年までの三つの地域、すなわち、海峡植民地と非マレー連合州(第6章)、マレー連合州(第7章)におけるハンセン病施設の改革について分析がなされる。最後の第4部の2つの章は、本論文の中心であり、クアラルンプール郊外に位置するスンガイ・ブロー(Sungai Buloh)のハンセン病居住区の計画・建設(第8章)とその背後にある理念、そして、ひとびとの生活が語られる(第9章)。最後の10章は、分析と結論となる。

第1章は、序に相当し、問題の所在、研究の対象、仮説、既存の研究のレビュー、研究に採用された方法が記される。

第2章は、文献による、英領マラヤのハンセン病の歴史の解明である。15世紀以前のマレー世界、15世紀以降イスラム教の伝播以降、ポルトガル・オランダの植民地政策以降のそれぞれの時代におけるハンセン病への対応、すなわち、隔離政策について分析がなされる。さらに、そこで誕生していた土着的なハンセン病施設—ハンセン病村とキリスト教宣教師僧院—が紹介される。

第3章では、1867年から1936年にかけての英領マラヤにおけるハンセン病の隔離政策が考究される。1867年イギリスインド植民地から自立した海峡植民地では、ハンセン病患者の隔離政策が開始される。また、1895年マレー連合州が成立すると隔離は、性別のみならず、人種別の隔離へと発展していった。

第4章では、シンガポールを含むイギリスの海峡植民地における隔離ハンセン病病院の

配置や物理的状況が歴史的に解明される。

第 5 章では、マレー連合州における隔離ハンセン病病院が、第 4 章と同様、物理的側面について述べられる。

第 6 章では、ハンセン病の薬物療法の進歩が 1920 年代におこり、そのことによって隔離政策に対する考え方と方法が変化したことが述べられる。とりわけ、クアラルンプールハンセン病隔離所におけるトラバース博士(Dr. Travers)の改革が、そのハンセン病患者たちの生活を大きく変えたことが解明されている。

第 7 章では、1920 年代の改革の影響が、ペナン島に近接した Jerejak 島ハンセン病隔離所、ジョホールの Tampoi ハンセン病隔離所に及び、住居および患者たちの生活が変化したことが、第 6 章にならって分析される。

第 8 章では、これまで明らかでなかった、クアラルンプールのスンガイ・ブロー・ハンセン病居住区の誕生(1930)、建設の過程が、多くの公文書によって解明される。既存のハンセン病隔離所が都市化によって移転を余儀なくされ、クアラルンプールの郊外に建設された。

第 9 章では、この当時世界的に画期的であったスンガイ・ブロー・ハンセン病居住区の位置づけを、第一次世界大戦後の社会福祉思想、都市計画思想から解明する。クアラルンプールで計画されたガーデンシティの思想がこのスンガイ・ブローに影響があった可能性が高いことが述べられる。また、そこに建設された单身、家族用居住施設、そこでのハンセン病患者たちの日常生活が解明される。

第 10 章は、結論として、第 4 章から 9 章までに明らかにされた英領マラヤにおけるハンセン病施設が、その物理的形狀から三つの段階に区分できることが述べられる。第 1 期は、1880 年代以前であり、きわめて簡素な倉庫、もしくは病院施設の時期である。第 2 期は、1880 年代から 1922 年までの時期であり、いくつかの病院施設が単純に並存させられるものであった。1922 年から 1955 年までが第 3 期であって、さまざまな機能の医療施設が街区計画によって建設される。そこでは充足した生活が営まれるだけの広さと機能が有されていた。

本研究は、従来、社会政策について関心が高かったハンセン病の歴史的解明に対して、その療養施設と言う物理的側面—とりわけ、配置計画、居住施設に眼を向けると同時に、そこでの療養者たちの日常生活についても、一次資料を駆使して明らかにしている。その研究方法、分析内容、結果は、博士論文の水準に達している。よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。